



宮司プレス 第六十三号

彦島八幡宮 宮司 ニュース

発行者 彦島八幡宮

宮司 柴田 宜夫

発行 平成二十三年 八月二十一日

◇宮司の柴田です。 暦の上では、立秋を過ぎましたが、残暑ことのほか厳しき昨今であります。 宮司プレスは、もちろん、毎月一日の発行を目指すのですが、暖気運転(たんきうんてん)、まるで冬の自動車の発進のように、今月も発行が遅れました。 朝粥会の日の発行が、茶飯事(さはんじ)になりますね。 二十一日という日は、当宮の縁(ゆかり)の深い日、例大祭執行(れいたいさいしつこう)の日でありますので、その日に発行するのも意義深い事であるとご理解ください。

◇本日(八月二十日)もいつものように、早朝四時にお宮に出社しますと、小雨が降っていました。 午前七時過ぎ頃から、拝殿前の東側の清掃と「掃き目(はきめ)」をつける、「めたて」の作業をしましたが、天然の「打ち水」効果で、実にさわやかで涼しく、作業がはかどりました。 よく見るとアブラゼミの「しがい」を、いくつも見つける事が出来ました。 「空蟬(うつせみ)」の「という言葉は、「生命」や「世、現世(うつしよ)」にかかる枕詞(まくらことば)です。 蟬は、七年間、地中にて生活し、地上

では七日間しか生きられません。 従って、その蟬のはかなさを、この世の中の「盛者必衰(せいじゃひつすい)の無常(むじょう)さや、限りがあり、しかも定めのない人の命に例えているのですね。

◇宮司プレスで、何度も掲載しましたが、「徒然草(つれづれぐさ)」には、「存命の喜び 日々樂しまざらんや」と書かれています。 死といううもものが、逃れる事の出来ない、恐ろしい憎むべきものであればこそ、今ある命を大切にしなければならぬ、そして、今ある命を感謝し、生かされて活き活きと生きる事こそが、「存命の喜び」であると説いています。 蟬の鳴く声は、うるさくて、うだるような暑さをさらに演出する効果があつて、嫌悪(けんお)されるかもしれない。 しかし、七日間という短き時間を「存命の喜び」として鳴き続ける姿は、見習いたいものですよ。

◇八月は、私は、鎮魂(ちんこん)の月だと思えます。 沢山の方々の尊い命が失われて、そのお蔭で、私たちは生かされているのです。 六日の広島原爆投下の日、九日の長崎原爆投下の日、そして、十五日の終戦記念日。 先の大

戦では、軍人・民間人(みんかんじん)含めて三百十万人の方が、亡くなられました。

そして、十一日は、東日本大震災より五か月の日。 その被災された人々を勇気づけた「上を向いて歩こう」「見上げてごらん」を歌われた、坂本九さんも亡くなった日航ジャンボ機が墜落したのが、十二日です。 日本人は、死者への悲しみや弔(とむら)い、魂(たましい)への慰(なぐさ)めを和歌や詩に託して、何百年も経て語り継いできました。 それは、「人は、屍(しかばね)になつて死を迎えるのではなく、その人を知っている人が一人もいなくなつた時に死を迎える」と考えられてきたからだと思います。 私たちも、決して忘れてはなりませんし、次の世代にも伝えていかななくてはならないと思ひますね。

◇文明は、災害から人類を守るために、人類が発明した「対災害システム」の別名なんだそうです。 しかしながら、今回の大震災では、逆に高度な文明(車社会、原発等)が、被害を増大させたという矛盾も認めざるを得ません。 文明も、完全に、災害を防ぐことはできないのです。 やはり、災害から「大難(だいなん)は小難(しょうなん)に、小難は無難(ぶなん)に」と守るすべは、古き良き時代の「絆(きずな)」のような気がします。

◇今朝の、そのひんやりとした静寂のなか、松

虫の鳴き声も聞こえてきて、秋の気配を感じました。季節は、定まった順序で移ろいますが、そうではないのが、人の命なのです。ですから、神様、大自然、人、仲間そして、自分が住んでいる地域と繋（つな）がって、「絆（きずな）」を深めつつ、「存命の喜び」を分かち合う事こそが、大切なのではないでしょうか。御自愛をお祈り申し上げます。

◇七月、八月の祭典行事報告

▼朝粥会 *七月二十一日 午前六時半

▼敬神婦人会草刈奉仕作業

*七月二十三日、二十四日早朝

▼夏越祭

◆奉納グランドゴルフ大会 *七月二十四日

◆本宮 *前夜祭 七月二十九日



*御神幸祭 七月 三十日



◆田の首八幡宮 七月二十四日



◆六連島八幡宮 七月二十五日

◆海士郷恵比須神社 七月三十一日

▼月次祭 *八月一日、十五日

▼まほろば学級開催 *八月七日



▼神道家（しんとうけ）中元祭 *八月中旬

◇八月、九月の祭典行事予定

▼朝粥会 *八月二十一日

▼月次祭 *九月一日、十五日

▼若宮祭 *九月十日～十一日

◇八月の宮司の行事会議等予定（報告も含む）

▼山口県神社庁並びに下関支部関係

◇支部幹事会 *八月二日

◇役員会、県氏青連会役員会 *八月二十七日

◇支部総会 *八月三十日

▼神職養成講習会（神社神道概説の科目を担当）

◇講義 *八月三日、十～十一日、二十三～二十四日

◇神宮参拝実習引率 *八月四日～五日

◇成績判定会議、謝恩会 *八月二十六日

◇閉講式 *八月二十七日

▼西ローターリーグクラブ

◇例会 *八月三日、十七日、三十一日

◇メーキャップ *八月二十五日

▼講演活動

◇宮司講和会

*八月一日 ※次回は、九月一日！

▼当宮関係団体

◇維蘇志会例会 *八月六日

◇神道会世話人会 *八月二十二日

▼倫理法人会（モーニングセミナー）*八月三十一日

▼教誨活動（美祿社会復帰促進センター）

◇集合教誨（女子）*八月八日